



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月2日

上場会社名 日本ライフライン株式会社 上場取引所 東  
コード番号 7575 URL <https://www.jll.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 啓介  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理統括部長 (氏名) 江川 毅芳 TEL 03-6711-5200  
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	38,302	△0.5	8,450	6.5	8,586	8.8	6,173	35.0
2023年3月期第3四半期	38,498	△1.3	7,931	5.7	7,891	5.1	4,571	△17.2

（注）包括利益 2024年3月期第3四半期 6,476百万円（40.9％） 2023年3月期第3四半期 4,595百万円（△19.1％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	80.70	—
2023年3月期第3四半期	58.47	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	70,213	56,968	81.1
2023年3月期	74,641	56,195	75.3

（参考）自己資本 2024年3月期第3四半期 56,968百万円 2023年3月期 56,195百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	38.00	38.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	42.00	42.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,680	△2.1	10,945	1.0	10,844	△0.6	7,902	14.7	103.81

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：有
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	82,919,976株	2023年3月期	82,919,976株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	7,558,306株	2023年3月期	4,999,561株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	76,496,250株	2023年3月期3Q	78,181,877株

(注) 当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、信託が所有する当社株式は「(4) 発行済株式数(普通株式)」において自己株式として取り扱っております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
3. その他 .....	10
生産、受注及び販売の状況 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間末現在において当社グループが判断したものであります。

## (経営環境について)

当第3四半期連結累計期間は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更されたことを背景に、事業環境は概ね良好に推移しました。

当社の業績への影響度が特に大きい心房細動（AF）のアブレーション治療の症例数は、前年同期比8～9%増加したと推計しており、期初で想定した水準（通期ベースで6%程度増加）を上回るペースで推移しました。これを受け、主力事業であるEP/アブレーションの自社製品は前年同期比10%程度の増収となり、業績をけん引しました。

さらに、中期の重点施策の1つである「新領域の拡大」も順調に進捗し、業績の底上げに寄与しました。脳血管領域では、塞栓用コイルが市場に着実に浸透したほか、第1四半期に販売を開始した血栓吸引カテーテルも良好に進捗しました。消化器領域では、自社製の胆管チューブステントの拡販が進み、発売後約1年で10%を上回るシェアを獲得しました。

一方、EP/アブレーションの重要商品であったBaylis Medical社製の「RF Needle（アールエフニードル）」は、前連結会計年度末で当社による独占販売が終了し、当連結会計年度から、販売支援サービスを提供する形に商流が変更されました。この変更により、当社の業績に減収の影響がありましたが、販売支援サービスは商品仕入を伴わないため、売上総利益率を改善する方向に作用しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は前年同期比で0.5%減少したものの、売上総利益は同5.3%増加となり、販売費及び一般管理費の増加を吸収し、営業利益以下の各段階利益は増益となりました。

なお、昨今、外国為替相場が大きく変動する状況が続いていますが、当社の業績に対して影響は限定的です。円安は商品仕入価格の上昇要因になりますが、当社の商品仕入の約70%は円建てであります。また、売上原価の計算に移動平均法を用いているため、一部の仕入商品や部材において一時的な調達コストの上昇が生じても、その影響は長期間にわたって平準化されます。

## (業績について)

当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)		増減	増減率
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)		
① 売上高	38,498	100.0	38,302	100.0	△195	△0.5%
② 売上総利益	22,140	57.5	23,305	60.8	1,164	5.3%
③ 営業利益	7,931	20.6	8,450	22.1	518	6.5%
④ 経常利益	7,891	20.5	8,586	22.4	695	8.8%
⑤ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,571	11.9	6,173	16.1	1,601	35.0%

## ① 売上高

前年同期と比べ、195百万円減収の38,302百万円となりました。詳細は後段の「品目別売上高」に記載しております。

## ② 売上総利益

前年同期と比べ、1,164百万円増加の23,305百万円となりました。AF症例数の増加による自社製品の増収、「RF Needle」の商流変更による仕入商品の減収等により、自社製品比率は前年同期比で4.6pt高い59.0%となりました。さらに、棚卸資産の廃棄損・評価損が前年同期と比べ182百万円減少しました。これらを受け、売上総利益率は前年同期に比べ3.3pt高い60.8%となりました。

## ③ 営業利益

前年同期と比べ、518百万円増加の8,450百万円となりました。販売費及び一般管理費は、一時的な雑収入の発生や研究開発費の減少等があったものの、賞与引当金繰入額の増加や営業活動量の増加に伴う販売関連費用の増加等があったため、前年同期に比べ増加しました。この結果、営業利益率は前年同期に比べ1.5pt高い22.1%となりました。

## ④ 経常利益

前年同期と比べ、695百万円増加の8,586百万円となりました。営業外収益として受取利息等で256百万円、営業外費用として支払利息や金融手数料等で119百万円を計上しました。

## ⑤ 親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期と比べ、1,601百万円増加の6,173百万円となりました。前期の第3四半期に特別損失として投資有価証券評価損1,190百万円を計上したことの影響がありました。なお、法人税等の負担率は28.1%でした。

(品目別売上高)

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	増減	増減率
リズムデバイス	9,380	10,144	764	8.1%
EP/アブレーション	19,474	18,154	△1,320	△6.8%
心血管関連	8,060	8,985	924	11.5%
消化器	1,582	1,018	△564	△35.7%
合計	38,498	38,302	△195	△0.5%

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来の「外科関連」を「心血管関連」に、従来の「消化器/PI」を「消化器」に名称変更しており、心房中隔欠損閉鎖器具は、旧区分の「消化器/PI」から新区分の「心血管関連」へ区分を変更しております。前第3四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分に組み替えた数値で算出しております。

リズムデバイス	心臓ペースメーカ、T-ICD（経静脈植込み型除細動器）、S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）、CRT-P（両心室ペースメーカ）、CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）、AED（自動体外式除細動器）
EP/アブレーション	EP（電気生理用）カテーテル、アブレーションカテーテル、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、スティラブルシース、大腿静脈用止血デバイス
心血管関連	人工血管、オープンステントグラフト、ステントグラフト、塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル、心房中隔欠損閉鎖器具
消化器	胆管チューブステント、胆管拡張バルーン、胆道鏡システム、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステント、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針

## ① リズムデバイス

ペースメーカ関連は、前年同期に比べ3.9%の増収となりました。特に第3四半期において、既に販売を終了していた旧モデルにおいて自主回収が発生し、ペースメーカ本体の交換症例が増加していたことが影響しました。

ICD関連は、前年同期に比べ11.0%の増収となりました。市場でオンリーワンであるS-ICDは、重点的に拡販施策を行ったことで、新規採用施設が増加しリピート率も改善しました。その結果、ICD関連の売上高は四半期ベースで過去最高となりました。

以上により、リズムデバイスの売上高は、10,144百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

## ② EP/アブレーション

EPカテーテルは、前年同期に比べ9.8%の増収となりました。AF症例数が前年同期比8～9%程度の増加となったことを背景に、心腔内除細動カテーテル「BeeAT（ビート）」、EPカテーテル「EP Star（イーピースター）」、食道温モニタリングカテーテル「Esophastar（エソファスター）」等の自社製品が伸長しました。

アブレーションカテーテルは、前年同期に比べ19.7%の減収となりました。内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight X3（ハートライト・エックススリー）」は、仕入先メーカーからの供給不足について第3四半期で一定の改善が見られたものの、販売は引き続き低調に推移しました。

その他については、前年同期に比べ63.3%の大幅な減収となりました。第3四半期に発表した大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP（バスケード・エムブイピー）」は医療現場で評価され、販売は良好な立ち上がりとなりました。一方、「RF Needle」は商流変更の影響により大幅な減収となりました。

以上により、EP/アブレーションの売上高は、18,154百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

## ③ 心血管関連

人工血管関連は、前年同期に比べ5.5%の増収となりました。自社製品の人工血管「J Graft（ジェイグラフ）」及び仕入商品の腹部用ステントグラフトは、横ばいの市場の中で引き続きシェアを伸ばしました。自社製品のオープンステントグラフト「FROZENIX（フロゼニクス）」は、第3四半期で他社の新規市場参入による影響を僅かに受けたものの、新規顧客の開拓及び市場の拡大を追い風に、引き続き堅調に推移しました。

脳血管関連は、前年同期に比べ約4.7倍の大幅な増収となりました。塞栓用コイル「Avenir（アベニア）」の販売は、第2四半期に投入した追加モデルの効果もあり、引き続き好調に推移しました。さらに、第1四半期に発売した血栓吸引カテーテル「Esperance（エスペランス）」も、預託施設の拡大が想定を上回るペースで進んでおり、良好に進捗しました。

その他については、心房中隔欠損閉鎖器具の販売が堅調に推移し、前年同期に比べ3.5%の増収となりました。

以上により、心血管関連の売上高は8,985百万円（前年同期比11.5%増）となりました。

## ④ 消化器

消化器関連は、前年同期に比べ48.2%の増収となりました。胆管チューブステント「REGULUS（レグルス）」はデリバリー性能の高さが評価され、着実に市場シェアを伸ばしました。また、大腸用ステントや肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針の販売も堅調に推移しました。

その他については、薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro（オシロ）」を含むコ罗纳リー・インターベンション（CI）関連の販売が事業終了に向けて大幅に縮小したことで、前年同期に比べ70.1%の減収となりました。

以上により、消化器の売上高は、1,018百万円（前年同期比35.7%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(四半期連結貸借対照表に関する分析)

## ① 資産

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ6,539百万円減少し、40,590百万円となりました。これは主として、棚卸資産が1,435百万円増加した一方で、法人税等の支払い、配当金の支払いならびに自己株式の取得等により現金及び預金が7,857百万円減少したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ2,111百万円増加し、29,622百万円となりました。これは主として、投資その他の資産のうち「その他」に含まれている繰延税金資産が426百万円減少した一方で、投資有価証券が2,410百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から4,428百万円減少し、70,213百万円となりました。

## ② 負債

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ2,806百万円減少し、11,574百万円となりました。これは主として、短期借入金が1,500百万円、未払法人税等が917百万円、賞与引当金が369百万円減少したことによるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ2,394百万円減少し、1,669百万円となりました。これは主として、退職給付に係る負債が1,945百万円、長期借入金が351百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から5,201百万円減少し、13,244百万円となりました。

## ③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ773百万円増加し、56,968百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益を6,173百万円計上した一方で、剰余金の配当を2,965百万円実施したこと、ならびに自己株式が2,766百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、最新の事業の状況を踏まえ、2023年11月6日に発表した2024年3月期の業績予想の精査を行った結果、これを据え置くことといたしました。

当第3四半期連結累計期間末時点において、売上高及び各段階利益はほぼ業績予想並みに進捗しており、第4四半期連結会計期間においても、業績は引き続き堅調な推移を見込んでおります。

2024年3月期 通期連結業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
業績予想 (2023年11月6日発表)	百万円 50,680	百万円 10,945	百万円 10,844	百万円 7,902	円 銭 103.81
(ご参考) 旧業績予想 (2023年5月10日発表)	48,807	9,763	9,531	6,854	89.13

※ 上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,357	10,499
受取手形及び売掛金	13,223	13,508
棚卸資産	13,142	14,577
その他	2,406	2,004
流動資産合計	47,130	40,590
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,102	6,900
その他(純額)	5,349	5,581
有形固定資産合計	12,452	12,482
無形固定資産	2,414	2,385
投資その他の資産		
投資有価証券	5,498	7,908
長期貸付金	2,547	2,623
その他	5,995	5,642
貸倒引当金	△1,397	△1,420
投資その他の資産合計	12,643	14,754
固定資産合計	27,510	29,622
資産合計	74,641	70,213
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,429	3,423
短期借入金	5,000	3,500
1年内返済予定の長期借入金	568	468
未払金	651	1,044
未払法人税等	1,585	667
賞与引当金	1,510	1,140
役員賞与引当金	32	42
その他	1,604	1,287
流動負債合計	14,381	11,574
固定負債		
長期借入金	536	185
役員株式報酬引当金	141	152
退職給付に係る負債	2,289	343
その他	1,096	987
固定負債合計	4,063	1,669
負債合計	18,445	13,244
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	13,774	13,802
利益剰余金	42,741	45,949
自己株式	△2,365	△5,132
株主資本合計	56,265	56,735
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△312	△174
為替換算調整勘定	299	448
退職給付に係る調整累計額	△56	△40
その他の包括利益累計額合計	△69	233
純資産合計	56,195	56,968
負債純資産合計	74,641	70,213



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	38,498	38,302
売上原価	16,358	14,997
売上総利益	22,140	23,305
販売費及び一般管理費	14,209	14,854
営業利益	7,931	8,450
営業外収益		
受取利息	79	101
受取配当金	50	25
為替差益	16	37
事業譲渡益	—	42
投資有価証券評価益	—	20
その他	31	28
営業外収益合計	178	256
営業外費用		
支払利息	26	20
貸倒引当金繰入額	69	20
投資有価証券評価損	4	—
支払手数料	49	28
その他	68	49
営業外費用合計	218	119
経常利益	7,891	8,586
特別利益		
固定資産売却益	2	6
投資有価証券売却益	—	6
特別利益合計	2	13
特別損失		
固定資産除却損	6	14
投資有価証券売却損	3	—
投資有価証券評価損	1,190	—
特別損失合計	1,200	14
税金等調整前四半期純利益	6,693	8,585
法人税、住民税及び事業税	1,858	2,053
法人税等調整額	263	358
法人税等合計	2,121	2,412
四半期純利益	4,571	6,173
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,571	6,173

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	4,571	6,173
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△306	138
為替換算調整勘定	379	149
退職給付に係る調整額	△49	15
その他の包括利益合計	23	303
四半期包括利益	4,595	6,476
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,595	6,476

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2023年5月10日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間中に、自己株式2,567,600株(取得価額2,758百万円)を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己株式は5,132百万円となっております。

(会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法については、従来、当社は主に定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法)を、海外連結子会社は主に定額法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より当社においても、将来にわたり、有形固定資産の減価償却方法を定額法に変更しております。

インターベンション事業の終息等に伴い、当社グループの事業構造ならびに製造に関する体制が大きく変化したこと、及び、これらの変化を踏まえた新中期経営計画の策定を契機に、有形固定資産の使用実態に照らして減価償却の方法を再度検討いたしました。この結果、有形固定資産は長期安定的な稼動が見込まれること、急激な技術的陳腐化は見られないこと、今後の投資に対する効果が平均的に生ずると見込まれることなどから、定額法を採用することが費用配分の観点から合理的であると判断したことによるものであります。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ117百万円増加しております。

## 3. その他

生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	増減率
リズムデバイス	13	9	△29.1%
EP/アブレーション	4,012	4,707	17.3%
心血管関連	806	962	19.4%
消化器	472	447	△5.3%
合計	5,304	6,128	15.5%

(注) 1. 金額は製造原価によっております。

2. 第1四半期連結会計期間より、従来の「外科関連」を「心血管関連」に、従来の「消化器/PI」を「消化器」に名称変更しており、心房中隔欠損閉鎖器具は、旧区分の「消化器/PI」から新区分の「心血管関連」へ区分を変更しております。前第3四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分に組み替えた数値で算出しております。

## ② 受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しております。

## ③ 販売実績

販売実績につきましては、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。